

活動に参加しています。
この「心の変化」については、またの機会に分析するとして、今回は地域医療を育てる会が毎月開催している、住民参加による『レジデント研修』についてレポートしてみたいと思います。

コミュニケーションスキルの重要性

私が「NPO 法人地域医療を育

てる会」に入会したのは、昨年、2008年4月のこと。そして、会員になって、なにもわからないまま初めて出席したのが、同年4月に行われた「レジデント研修」でした。「さあ、研修を始めましょう！」と書かれた研修スケジュール。東金病院の一室で20人弱の市民が一人の若い研修医を囲むかたちで、それは始まりました。スタートから終了まで、1時間半の流れはこんなかんじです。

あなたの素朴な疑問と率直な意見が、若手の医師を育てます！

医師育成サポーター 募集中

日ごと、診察室では医師に遠慮して聞けないこと・病気の予防について知りたいことはありますか？

NPO 法人 地域医療を育てる会では、若手医師を育てるための懇話会(研修)に参加する「医師育成サポーター」を募集中です。

千葉県立東金病院で実施します。

毎月一回(平日 夕方より) 2時間程度

平成21年度から、2名の医師の研修を行うため、

医師育成サポーターのグループを「月曜日開催」と「火曜日開催」の

2つにします。

研修出席者には、健康情報満載の小冊子をプレゼント！

ご質問、「医師育成サポーター」登録ご希望の方は、

000-0000-0000 までどうぞ。

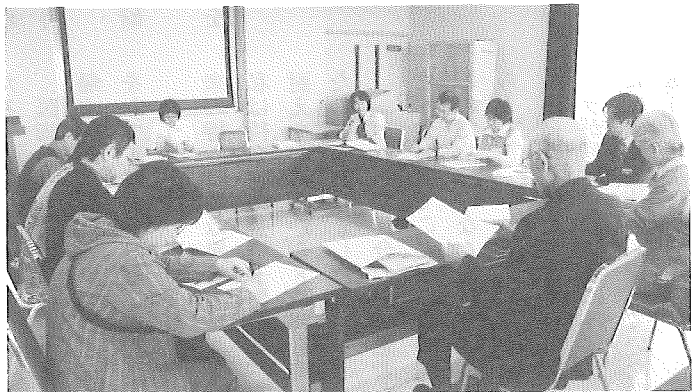
(NPO法人地域医療を育てる会 藤本 平日午前中対応)



医師育成サポーター募集のチラシ。平成21年度からは、月1回から2回に研修回数を増やす予定。

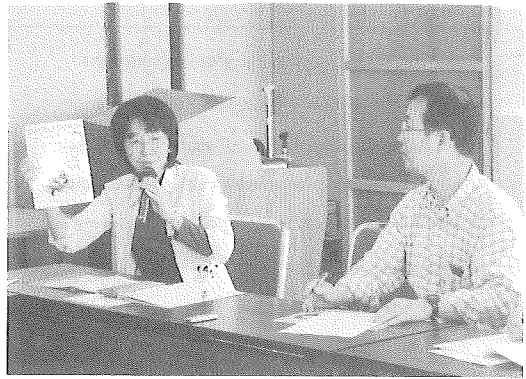
5時 主催者からの挨拶(研修医の評価用紙配布)
5時15分 研修医自己紹介(ここから評価が始まります)
研修医の話(15分)
5時30分 質疑応答(15分)
5時45分 討議(30分)
サポーター(住民)の自己紹介 名前と、質問の答え(簡単に)
研修医の司会進行のもと、討議
6時15分 評価用紙記入(15分)
6時30分 評価用紙回収
次回のテーマについて 解散

この日のテーマは『肺炎』。私たち住民は、研修医から医学的な説明を聞きながら学び、同時に、説明をする研修医の話の判りやすさやスピード、こちらの話を聞く姿勢、アイコンタクトなどをこまかく評価していくのです。



レジデント(ホワイトボード下)を囲んで研修スタート。NPOの藤本理事長の司会で、まずは「評価表」の確認。

医師を一般市民が『評価』するなんて……、それは私の意識の中には全くなかった行為だっただけに、少々気を使って甘い点数をつけてしまった気もしましたが、この日の体験は、医療者とのコミュニケーションがいかに大切であるかを教えてくれた貴重なものとなりました。そして、ふと気づくと、目の前で



研修のテキストには毎回「ロハス・メディカル」を活用しながら議論を深めます。

「薬の加減でしょう」という一言で軽くあしらい、胃薬だけを処方してすぐに自宅へ帰したのも、別の研修医だったのです。

あのとき、父に付添って病院へ行き、そのやり取りを間近で聞いていた私の妹は、

「あのとき、お父さんは相当辛そうだったのに、お医者さんはお父さんと目も合わせず、3分診療どころか、お父さんの言葉をさえぎるように、1分もたないうちに診察を切り上げたのよ……」

そう、悔しそうに訴えていました。父はその診察の2日後、出血性胃潰瘍で大量吐血し、緊急手術を受けましたが、結果的に多臓器不全で1カ月後に亡くなりました。後にカルテを取り寄せたとき、複数の研修医が日替わりの輪番で外来の診察に当たっていたことを知り、

「せめて経験豊富な指導医が横についていてくれれば……」

「もう少しじっくり父の訴えに耳を傾けて、内科の医師などに相談し

てくれれば……」

『お父さんも、もっとしつかり自分の症状をお医者さんに伝えればよかったのに……』

と、素人ながらもいろいろな考えをめぐらせ、悔しい思いをしたことを覚えています。

医師と患者——、診察室という小さな空間で対面しながらも、そこには常に、目に見えない大きな溝が横たわっているような気がしてなりませんでした。

しかし、東金病院のレジデント研修に参加してからは、

『双方向のコミュニケーションを

図ってその溝を埋めることができれば、少なくとも父のような残念な結果に陥る患者を減らすことができるのではないだろうか』

そんな希望がわいてきたのです。考えてみれば、私のガーゼだって、同じだったのかもしれない。原因不明の体調不良を、患者としてもっと上手く伝えることは出来なかっただろうか？

医師の側も、「特に異常なし」で帰す前に、もう一歩突っ込んだ検査をしていてくれれば……。

そういえば、当時の東金病院の外来の待ち時間は異常な長さでした。私は待合室の長椅子の上で、腹痛に耐えながら朝から8時間も待たされたことがあります。

『どうして具合の悪い患者を、飲まず食わずでこんなに長時間待たせるのだろう、なんてひどい病院かしら！』

とにかく待たされている間はイライラが募り、診察室に呼ばれたときには、相当怖い顔をしていたに違いありません。

一生懸命話をしている若き研修医に、『頑張って！』と応援している自分がいたのです。

実は、それまでの私は、『研修医』

Ⅱ「レジデント」という言葉に、異様なほどのマイナスイメージを持っていました。

というのも、私の父に過剰なステロイドを投与したのは、某県立病院の耳鼻科外来で、一人で診察を任されていた研修医だったからです。また、その数日後、父が真っ黒い「タール便」や胃の不調を訴えたとき、



研修終了後、レジデントと歓談する市民サポーター。



認定医試験を目前に控えたレジデントに、市民サポーターから激励の花束贈呈&記念撮影。

しかし、こうした活動に参加してみても、当時の東金病院では内科の医師が激減し、少数の医師が寝る間も惜しんで診察に当たっていたという事実を初めて知りました。あのとき、少しでもそういう事情が分かっていたら、お医者さんに対して、『お疲れ様です』という一言も出たかも知れません。しかし、病院との接点が多かったくないあの状況では、「コ

ミュニケーション」という言葉すら、存在しえなかったのです。

ちなみに、「レジデント研修」の概要については、NPO法人地域医療を育てる会のホームページ上で、次のように解説されています。

（2007年度春から、千葉県立東金病院ではNPO法人地域医療を育てる会との共催で「病氣予防のための懇話会」を実施して

います。

これは、一般の方への病氣予防や健康増進のために必要な「啓発活動」で、東金病院ではかねてから「巡回市民講座」を実施し、地域の住民への情報発信と、検診を行ってききました。こうした病氣予防のための働きも、医師の大切な働きだという位置づけで行われています。また、地元の人々にとっても、具合が悪くなる前に健康チェックが出来る

また正しい病氣予防の知識を得られる機会として大変喜ばれています。

しかし、時間の制約もあり、住民が質問をしたり、意見交換をしたりする時間が十分ではありません。

そこで「病氣予防のための懇話会（仮題）」では、指導医同席のもと、若手医師による健康講話を聴き、住民が質問をしたり、お互いに意見交換をしたりする時間を取ります。

さらには、医師の話が理解しやすかったか、などを住民がフィードバックし、若いお医者さんのコミュニケーションスキルを上げるためのお手伝いをします。

注目すべきは、この研修会で期待される、次のような4つの効果が挙げられていることです。

1. 医師が、一般の市民の医学的知識や、理解度を知ることが出来る、自分の診療場面での説明や、病氣予防のための啓発活動に役立てる。
2. 一般市民が、医師から正しい病氣予防や健康のための情報を得る

ことが出来、自分の健康に役立てる。

3. 地域の中で病氣予防に対する関心を高め、病氣の予防や早期発見につなげる。

4. 双方向のコミュニケーションをとることで、医師と住民の間に良い関係をつくる事ができる。

レジデント研修に参加したサポーターからは、終了後、研修医の先生に、心温まるこんなメッセージが寄せられました。

「アイコンタクトが素敵に思いました。人の意見をよく聞き、自分のことを素直に語っていると、私も素敵です。先生のお人柄が、ディスカッションを重ねていくうちにわかりました。きっと素敵な、患者に信頼される先生になられると確信しました」

こうした取り組みが全国各地で広がっていけば、地域医療はもっと元気になっていくような気がします。

